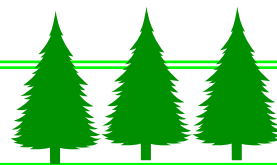




みつぎ便り



第228号 9月号 令和7年9月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



オオスズメバチ

オオスズメバチは日本に生息するハチ類の中でも強い毒性を持ち、攻撃性も高い危険な害虫です。

体長は女王バチが六十mm前後、働きバチでも四十mm前後の世界最大のハチで、木の穴や屋根裏などの閉鎖空間に巣を作ります。時速五十kmで飛び、狩りの時は一日で百kmもの距離を移動する持久力も持ちます。

オオスズメバチは多くの昆虫を餌としますが、昆虫の中でもオニヤンマ、オオカマキリなどの天敵もいま



す。また、ニホンミツバチが大好物で蜂の巣ごと襲撃しますが、逆にミツバチが一匹のオオスズメバチを集団で囲む熱殺蜂球によって酸素不足と高温の状況にして蒸し殺してしまいう逆襲もあります。

万が一に刺された場合、応急措置として冷たい流水で洗い流しながら毒と血液と一緒に絞り出すと良く、首から上を刺された場合には命の危険もあるので、すぐに医療機関を受診しましょう。

(昭)

アレチヌスビトハギ

北米原産の帰化植物で、一九四〇年に大阪府にて初めて見つかりました。高さは五十cm程で葉は三つの小葉に分かれて楕円形で長さ四cm程、幅一cm程です。九、十月に、昼間に鮮やかなピンク色の花が咲き夕方にしぼみ赤くなる様子が見られます。

その後果実ができますが、表面に細かい釣針形の毛があるため衣服につきまします。そのためひつつき虫として知られています。関東以西の空き地、平地、道端などで見かけます。日本固有種のヌスビトハギは、広く東アジアに分布していますが、名前のヌスビトとは、果実の形状が数



珠つなぎになっいて、泥棒が足早に去っていく足跡のように見えることから名付けられました。目にして確認したい秋の楽しみです。

アレチヌスビトハギの豆果は在来ヌスビトハギより大きく節が多いのが特徴で、秋の季語として多くの詩に詠まれています。

「てぶくろに盗人萩の実を付け来」

辻 桃子

あら、こんなところで咲いているの、と秋のある日、巡り合いたいのだ。

(奈)